

# 安足地域水稻技術情報 No. 1

令和6(2024)年5月14日

安足農業振興事務所

○ 種子や床土の消毒をしっかりと行いましょう

○ 浸種・催芽・育苗時は温度管理に注意しましょう

## 1 今後の気象

気象庁の1か月予報(5月9日発表)によると、向こう1か月の平均気温は「高い」、降水量は「多い」、日照時間は「平年並または少ない」という予報が出されています。

昔から「苗半作」と言われるとおり、良い苗ができるか否かは稲作全体の成否に非常に大きな影響を及ぼします。健苗育成に努めましょう。

表 関東甲信地方の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(5月9日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 05/11~06/10	10 10 80
		1週目 05/11~05/17	10 10 80
		2週目 05/18~05/24	10 10 80
		3~4週目 05/25~06/07	10 30 60
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 05/11~06/10	20 30 50
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 05/11~06/10	40 40 20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 作業のポイント

### (1) 種子消毒を徹底し、病害の発生を予防

- ・良質米生産のため、採種ほ産の種子を3~3.5kg/10a準備しましょう。
- ・未消毒種子を購入した場合は、種子伝染性病害防除のため、必ず種子消毒を行いましょう。
- ・消毒中、種籾袋を2~3回上下に攪拌し、種子を完全に浸漬します。
- ・消毒液の使用は1回限りです。繰り返し使用しないようにしましょう。

表 主な種子消毒剤

農薬名	希釈濃度	使用方法	適用病害
テクリードC フロアブル	200倍	24時間 種子浸漬	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、 ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、 苗立枯病(リゾープス菌)、苗立枯病(トリコデルマ菌)

注)登録内容は、令和6年(2024)年5月8日時点

## (2) 浸種は積算温度を十分に確保【水温×日数=積算温度 120℃が目安】

- ・ 粃に十分に吸水させるため、粃容量の2倍の水(粃 10kg の場合は水 20 リットル)に浸漬しましょう。
- ・ 水温が上がり過ぎないように日光が直接当たらない場所(日陰等)で行いましょう。浸種の水温が高くなると、芽が早めに動き出してしまいます。十分に吸水されていないと出芽が均一になりませんので、注意してください。
- ・ 酸素不足を防ぐために、2日に1回は水の交換をしましょう。
- ・ 浸漬期間の後半になったら必ず粃を確認し、芽が動いていたら浸種を終わらしましょう。

表 積算温度の目安

消毒種子の種類	積算温度
消毒種子	: 120~130℃ (最初の3日程度は水を交換しない)
未消毒種子	: (1) の種子消毒を行った後 100~120℃
積算温度の計算例	: 水温 15℃ × 8 ~ 9 日 = 120 ~ 130℃



高温で水温が高くなり、想定よりも早く芽が動き出すことがあります。

芽が動き出すことが早まっても、その後の作業ができるよう前もって準備を進めておきましょう。

## (3) 芽が伸びすぎないようにこまめにチェック

- ・ 催芽の水温は 28℃ とし、18~20 時間で均一に催芽させましょう。
- ・ 催芽を揃えるため、1日に2~3回種子袋を反転させましょう。
- ・ 均一に播種するため、粃が手に付かない程度にまで陰干しを行い、種粃の水切り(脱水)は十分に行いましょう。



【催芽の目安】  
ハト胸~2mm  
(写真白丸)まで

## (4) 適正な苗立ち数確保のため、播種量の調節を

- ・ 播種量は、乾燥粃で 130g 以下(催芽粃で 170g 以下)/箱として、均一に播種しましょう。厚播は、軟弱徒長や苗立枯病の原因となります。

表 苗の種類毎の播種量並びに必要な箱数

苗の種類	播種量(g/箱)	育苗日数	葉齢(枚)	草丈(cm)
稚苗	乾粃 130	20	2.2~2.5	12~13
	催芽粃 170			
半中苗	乾粃 100	25	3.1	13~15
	催芽粃 130			
中苗	乾粃 100	30	4.1	15~18
	催芽粃 130			

## (5) 床土消毒剤の使用を忘れない

- ・ 苗立枯病の発生を予防するために、床土には予防剤を混合しましょう。
- ・ 人工培土で（加熱乾燥）消毒済みと書かれていても熱処理されているだけです。必ず床土消毒剤を使用しましょう。

表 苗立枯病に登録のある主な薬剤

処理時期	薬剤名	希釈倍率	育苗箱 1箱当たり 散布量	適用病害虫
播種時に かん注	タチガレエース M 液剤	500～1000 倍	500mL	ピシウム菌 フザリウム菌
	ダコニール 1000	500～1000 倍	500mL	リゾープス菌
	ダコレート水和剤	400～600 倍	500mL	リゾープス菌 トリコデルマ菌 フザリウム菌
	ナエファインフロアブル	2000 倍	500～ 1000mL	ピシウム菌 フザリウム菌 リゾープス菌

注) 登録内容は、令和6年(2024)年5月8日時点

## (6) 育苗期間中の温度管理はしっかり行いましょう

高温管理は、苗立枯病の発生要因となります。温度管理は18～25℃（30℃以上にしない）、夜間10℃（育苗中期～後期では夜間5～7℃以上）を参考に管理しましょう。

## (7) かん水はやり過ぎず、足らなすぎず

- ・ かん水は1日1回朝に行いましょう。
- ・ 緑化期：極度に乾燥した時以外はかん水を控え、初期の徒長を防ぎましょう。
- ・ 硬化期：床土の乾き具合、苗の生育状況を見て、控えめのかん水に努めましょう。

### 【かん水を控える場合】

#### ●晴れた日の日中や夕方

→ 地温が下がり、根張りが悪くなってしまうため、徒長苗の原因となってしまいます。

#### ●低温や雨天の日

→ 床土が過湿状態になり、苗立枯病の発生を助長してしまいます。

**農薬を使用するときは、ラベルをよく読み使用方法をきちんと守りましょう**

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

TEL: 0283-23-1431

URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>